

C・H・クーリーの「交通」の概念

中野剛志（客員研究員）

1. 研究の目的

本研究の目的は、アメリカの初期の社会学・社会心理学の創始者の一人であるチャールズ・ホートン・クーリーの「交通の理論」を解釈し、そこで展開された「交通」に関する理解を、彼の社会学の中に位置づけ、その現代的な意義を探究することである。

クーリーの交通に関する研究は、「交通の理論」のみであり、その後の研究は、主として社会学・社会心理学の基礎となる理論の構築に充てられた。しかし、彼の社会学は、人間と社会の密接不可分な相互依存関係に焦点を当て、その相互依存関係をつなぐコミュニケーションの役割を重視するものであり、そして「交通の理論」は、交通をコミュニケーションの一種とみなし、その社会における機能を分析するものである。従って、クーリーの交通の概念を理解することで、交通を彼のコミュニケーションの社会学の中に位置づけることができれば、コミュニケーションとしての交通の意義を理解する契機が得られる可能性がある。そしてそれは、今後の交通研究に対し、様々な課題や展望を提示することになる。それを示すことが本研究の目指す到達点である。

2. 概要

クーリーは、社会を諸個人のもつ観念の間の有機体的・相互依存的な関係の総体であるとみなし、その社会の成立要件である「関係」を指して、「コミュニケーション」とみなす。従って、コミュニケーションとは、単なる物質や情報の移動ではなく、社会的な文脈がなければ成り立ちえないものとみなされている。しかも、社会は、刻一刻と変化する動態

であるから、コミュニケーションの具体的な意味もそれに応じて変化する。このため、社会における人間関係の具体的なありようを理解することなしには、特定のコミュニケーションの意味を理解することはできない。

クーリーは、「交通」を、そのようなコミュニケーションの形態として定義した。従って、特定の交通の原因や結果、あるいは様式を理解するためには、その背景にある特定の社会的な関係の意味を理解しなければならない。クーリーにとって、交通は、相互行為論的な社会学が研究すべき課題なのである。

また、クーリーは、価値がコミュニケーションから生成するという理論を示している。これは、コミュニケーションとしての交通が価値を創造することを示唆するものである。

現代の交通研究は、交通を、「(人間の意思が介在した)人や物の移動」とする定義しているが、そこにはクーリーの言う意味におけるコミュニケーションの要素は明示的に入っていない。

これに対して、クーリーの「コミュニケーションとしての交通」の概念は、今日の交通研究において次のような意義をもつ。

第一に、それは交通を人間の意思が介在した人や物の移動とする定義に修正を迫り、これまでの交通研究が十分に光を当ててこなかった交通の主観的側面についての研究と、相互行為論的なアプローチの導入を促す。

第二に、交通というコミュニケーションが価値を生成するという理論は、交通と経済社会の発展にメカニズムの探究に向けて道を拓く。

第三に、交通需要予測や交通計画の費用効果分析において、交通の動態的な性格やその価値の多元性を考慮した、より実践的な手法の開発に対する示唆を与える。